**中浦ジュリアン像**

中浦ジュリアンは1567年にキリシタン武士の家に生まれ、有馬にあったイエズス会のセミナリヨで学びました。彼のキリシタンとしての人生は、15歳の時、天正遣欧使節としてローマに派遣される４少年の１人に選ばれたことで輝かしい転機を迎えました。中浦ジュリアンは1582年に日本を出発し、教皇グレゴリウス13世、教皇シクストゥス5世、スペイン国王フィリップ2世などに謁見した後、1590年に帰国しました。

豊臣秀吉が1587年にキリスト教神父の追放令を出すなど、中浦ジュリアンがいなかった8年の間に日本はキリスト教に対して不寛容になっていました。中浦ジュリアンは1608年に司祭に叙階され、1614年に幕府が禁教令を発し、外国人、日本人を問わず多くの司祭が国外に逃れた後も日本に残ることを選びました。そして、潜伏下で密かに信徒たちを指導しました。

1632年の暮れ、当時60代半ばになっていた中浦は幕府に捕らえられました。何ヶ月にもおよぶ獄中生活の後、1633年10月18日に穴吊りの拷問にかけられ、4日目の10月21日に亡くなりました。中浦ジュリアンは、2008年にローマ教皇ベネディクト16世によって188人の日本の殉教者の1人として列福されました。